

南極から附中へ

南極観測隊員のつぶやき

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校
校長通信 第21号 令和2年5月18日



○1911～1912年の出来事

・南半球の夏季は、北半球の冬季になります。

1911年12月から1912年1月にかけて、人類が南極点を目指します。目指したのはノルウェーのアムンゼン、イギリスのスコット、そして日本の白瀬轟です。



アムンゼン（ノルウェー）



スコット（イギリス）



白瀬（日本）

・アムンゼン隊は、1911年12月14日、人類初の南極点到達を果たし、一人の犠牲者も出さずに帰路につきました。スコット隊は、1912年1月17日、南極点に到達しましたが、帰路、全員が遭難しました。白瀬隊は、1912年1月28日、南緯80度5分に達するものの、南極点到達を諦め、帰路につきました。隊長としてのアムンゼンは、隊員の自主性を尊重しチームワークを重んじたそうです。一方、スコットは、軍隊式の命令系統を重んじたそうです。それぞれの隊長のリーダーシップが結果に影響したかどうか分かりませんが、私が南極で活動しているときは、アムンゼンのようでありたいと思っています。

・私が「スコットはすごい！」と思うことは、1着のアムンゼンが南極点に残した手紙を持ち帰ろうとしていたことです。アムンゼンの手紙は、アムンゼン自身が遭難しても南極点に到達したことを証明してほしいというものでした。すなわち持っている人が2着であることを証明する手紙でもあるのです。不幸にしてスコットは遭難しますが、この手紙を持っていたため、2着でも南極点に到達したことが証明されました。